

令和6年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

児童が自分の考えや気持ちを意欲的に伝え合う言語活動の充実を図る

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握の割合が増加

設定、公表 (R4, R5 : 100%)
把握 (R4:99.0%→100%)

②授業における、児童の英語による言語活動時間の割合が増加 (R4:94.0%⇒R5:98.3%)

③小中連携の実施状況の改善 (R4:78.8%⇒R5:97.6%)

①デジタル教科書の活用の割合が低い。「25%の未満の授業で実施」「実施していない」と答えた学校の割合が33.0%。

2. 要因分析

①②③

学校訪問や研修会等において、県教育委員会や市町教育委員会による指導や助言により授業改善が進んだと考えられる。

①デジタル教科書を含む端末の活用頻度について、地域または学校間の差が見られる。具体的な活用法の理解が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

○授業改善の推進

県独自の学力調査の結果分析・活用 (②①)

- ・正答率の低かった問題について、改善を図る指導事例を作成し、教員専用サイトに掲載。
- ・授業で使用できる、領域ごとの評価問題を作成し、教員専用サイトに掲載。

上記の指導事例や評価問題の活用を学校訪問等でも助言し、理解を図る。

○言語活動の充実 (①②①)

言語活動の充実を図るため、学校訪問や各種研修にて理解を図る。

- ・指定研修、希望研修
- ・教科指導リーダーによる研修
- ・外部の専門機関による研修

○年3回の指導主事会議で、教育事務所、市町教育委員会の指導主事と、お互いの課題や県の学力向上の重点に関わる好事例の共有を図り、学校訪問等での指導・助言に活かす。(①②③①)

令和6年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R5: 53.2% ⇒ R6: 60%)
- 生徒の英語による言語活動時間の割合 (R5: 86.1% ⇒ R6: 100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握の割合が増加
設定、公表 (R4, R5 : 100%)
把握 (R4:95.2%⇒100%)
 - ②授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加
R4 : 84.9% ⇒R5: 86.1%
 - ③1人1台端末を活用した授業の割合 (50%以上の授業で実施)が増加
R4 : 40.0% ⇒R5 : 52.3%
 - ④R5の全国学力調査の結果について、全ての設問の正答率が、全国の正答率を上回った。
- ①CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が微増したが、目標値までは不十分である。
R4 : 52.3% ⇒R5: 53.2%
- ②英語担当教員の授業における英語使用状況が減少
R4 : 88.1% ⇒R5 : 85.7%
- ③R5全国学力調査の結果から、英文を読み、自分の考えと理由を書くことに課題が見られる。

2. 要因分析

- ①②③④
学校訪問や研修会等において、県教育委員会や市町教育委員会による指導や助言により改善したと考えられる。
- ①ねらいに迫る言語活動の設定が不十分であることや、CEFRを基に生徒の英語力を把握し、指導に生かす意識が教員に十分浸透していないことが要因と考えられる。
- ②学校間・地域間の差が見られるが、言語活動を通して指導することに対する理解が不十分であることが要因と考えられる。
- ③読んだことについて、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く活動が不十分であることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- 授業改善の推進
全国学力・学習状況調査や県独自の学力調査の結果分析・活用 (④③)
・正答率の低かった設問について、改善を図る指導事例を作成し、教員専用サイトに掲載。
・領域統合の指導事例や端末を活用した指導事例を作成し、教員専用サイトに掲載。
・授業に使用できる、領域ごとの問題やパフォーマンステスト例を作成し、教員専用サイトに掲載。
- 上記の指導事例や評価問題の活用を学校訪問等でも助言し、理解を図る。
- 言語活動の充実 (①②③①②)
言語活動の充実を図るため、学校訪問や各種研修にて、理解を図る。
・指定研修、希望研修
・教科指導リーダーによる研修
・外部の専門機関による研修
 - 年3回の指導主事会議で、教育事務所、市町教育委員会の指導主事と、お互いの課題や県の学力向上の重点に関わる好事例の共有を図り、学校訪問等での指導・助言に活かす。(①②③①②③)

令和6年度 石川県 英語教育改善プラン

目標

言語活動の充実による生徒のコミュニケーションを図る資質・能力の育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5:A2以上 59.0%、B1以上 23.7% ⇒ R6:A2以上 60%、B1以上 30%)
- 授業の50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている割合 (R5:47.7%⇒R6:100%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

① スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が増加
R4 61.5% ⇒ R5 84.4%

② 求められる英語力（CEFR A2以上）を有する生徒の割合が増加
R4 57.7% ⇒ R5 59.0%

① 授業の50%以上の時間、生徒が言語活動を行っている割合が、昨年度とほとんど変わらなかった。
R4 47.8% ⇒ R5 47.7%

② 授業中の発話の50%以上を英語で行っている教員の割合に改善の余地がある。
R4 31.7% ⇒ R5 24.8%

2. 要因分析

① 研修会を開催し、大学教授を招いて、評価について専門的な視点から教員が学ぶ機会を設けたことで、学習到達目標への教員の意識が高まったことや教育課程研究集会等でパフォーマンステストの必要性を伝え、方法を共有したことで実施状況の改善につながった。
② 学習到達目標の設定、公表及び達成状況の把握を通して授業改善が行われてきたことや国際的な水準（CEFR）で生徒の英語力を教員が把握して指導に臨む意識が高まってきたことが要因と考えられる。

① 各学校で行っている言語活動について、1つの活動にかかる時間が十分でなく、生徒の深い学びにつながっていない傾向がある。

② 授業において、文法・語彙等の知識がどれだけ身についたかに重点が置かれていたり、授業全体が、実際のコミュニケーションの場となるような工夫が図られていなかったり、モデルとなるやり取りや場面に応じたフィードバックが少ないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②①②
・言語活動の重要性に対する教員の意識啓発
教育課程研究集会の中で、外部講師による講演、言語活動の取組の好事例の紹介、参加者による言語活動についての情報交換を行い、指導力向上につなげると共に、全校で言語活動の充実に向けた授業改善に取り組むようにする。
- ・授業改善の取組
総合訪問、教科指導訪問、要請訪問を活用し、研究協議会の中で、指導主事からの指導助言を受け、言語活動の活性化を目指した授業改善や指導力の向上を図る。
- ・「話すこと」の指導改善プランの活用
昨年度の研究授業やその分析会議での大学教授からの指導助言から、「話すこと」に関する言語活動における課題点を分析し、指導改善プランの中で具体的な解決方法を示し共有する。また、指導改善プランの中で、指導方法と評価の改善のためのチェック項目の形で示し、教員ひとりひとりが授業で行う言語活動やパフォーマンステストについて、振り返ることができるようにする。
- ・効果的な指導法や評価の共有
各学校で行った言語活動の実践事例の中でうまくいった言語活動やパフォーマンステストを報告してもらい、それを共有することで、教員が言語活動のアイデアを得たり、評価に関する知識を高める機会を作る。

石川県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	59.0	60		60		60		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		25	23.7	30		30		30		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	47.7	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	84.4	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		100	94.4	100		100		100		100	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		90	24.8	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		60	53.2	60		60		60		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		100	86.1	100		100		100		100	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		100	100	100		100		100		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		70	52.4	70		70		70		70	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		100	85.7	100		100		100		100	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	100	100	100		100		100		100	